LA 通信

第 652 回：外大図書館外の資料の集め方（DM）

みなさま、こんにちは。LA 毎週木曜 13:30~16:30 の担当、博士課程の DM です。今回は、外大図書館外にある資料の集め方を紹介します。ここまでの数回では、外大図書館での資料調査の方法を紹介してきました。調査を闇雲にしないために、作業範囲を適切な形で限定する必要があったからです。外大図書館の資料を使って研究を進め、さらなる資料が必要になったとき、外大図書館外の資料調査が有効になります。以下の四点は、その主な方法です：

（I）ILL を活用する ：他大学の図書館に所蔵されている資料は、外大図書館に取り寄せることができます（有料）。「CiNii Books」などで蔵書を確認して、外大図書館の窓口、または自分の「MyOPAC」から申し込んでください。（詳しくは MS さんの LA 通信（第 624 回）、または外大図書館窓口に）

（II）インターネット上の資料を見つける：大学のリポジトリなどには学術論文の PDF が多数アップロードされています。また、貴重な資料が各国の国会図書館のホームページなどで閲覧可能な場合もあります。（いわゆる「デジタルアーカイブ」については MS さんの LA 通信（第 625 回）に）

（III）自分の活動圏内の図書館を利用する：外大図書館にない資料が身近な図書館にある場合もあります。ホームページで蔵書を検索してみましょう。京都や奈良にお住まいの方、または車の運転がお好きな方は、国会図書館関西館を利用するのもオススメです。（ちなみに、外大の学生であれば、「神戸市立図書館」の資料も、三冊までなら無料で取り寄せることができます。詳しくは外大図書館窓口に）

（IV）自費で書籍を購入する：古本屋などで安く手に入る資料や、そもそも自分のものにしたい資料などについては、自分で買うのもオススメです。日本の作家の古い資料など、ある種の資料はこっちの方が手に入りやすかったりします。（詳しくは……元町の古本屋街に？）

M（Man） どれがオススメとかあるの？

D（Doctoral student） 状況次第です。私は外国文学が専門ですが、外国の資料は自力では入手困難な場合が多い。この場合、（I）や（II）をオススメします。 日本の書籍の場合は、（I）と（IV）は併用すべきです。古本屋とかで安く手に入る資料は、自分で買った方が便利ですし。

M こういうのって、AI はどうなの？

D あまり詳しくはないのですが、たしかに、自分の研究対象についての「基本的な参考文献リスト」の作成なんかには、役に立ちそうですね。ただ、資料を適切に集めるためにも、それ相応の経験や技術が必要です。私の立場で言えば、少なくとも学部生のレポート課題の場合は、「科学的な調査を行う能力を養うこと」を重視すべきだと思っていますので、まずは自力で頑張ってみて、その後で、必要に応じて AI を活用すればいいかと。

M というか、先生に訊いてみるのがいいかもね？

D それはそうです。向こうは専門家ですからね。

M そういうわけで、たかが博士課程の学生に過ぎないあんたは不要になります。

D そうならないよう、努めます。

LA 通信

第 652 回：外大図書館外の資料の集め方（DM）

……と、今回の LA 通信はここまで。次回は、今回紹介した方法を、DM が自ら実践していきます。次回もよろしくお願いします。

参考文献

エコ, ウンベルト（谷口勇[訳]）（1991）『論文作法：調査・研究・執筆の技術と手順』而立書房, 57-130: 書庫 1F(開架), N801.6==28

小笠原, 喜康（2018）『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書；2498）講談社, 73-110: 閲覧室入口正面, K2498

小熊, 英二（2022）『基礎からわかる論文の書き方』（講談社現代新書；2660）講談社, 143-156: 閲覧室入口正面, K2660

戸田山, 和久（2022）『論文の教室：レポートから卒論まで』（NHK ブックス,1272; 最新版）NHK 出版, 56-89: 閲覧室入口正面, N816.5==140

（また、本文でも言及しましたが、MS さんの LA 通信（第 624-625 回）も参照しました）